

令和2年7月16日（木）
国土交通省関東地方整備局
横浜港湾空港技術調査事務所

記者発表資料

令和元年度優良業務及び優秀技術者の事務所長表彰について

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所では、令和元年度に完了した業務の中で特に優れた成績を収めた業務及び技術者について、下記のとおり表彰を執り行います。

記

1. 表彰日

令和2年7月20日（月）

2. 表彰件数及び人数

優良業務 2件

優秀技術者 2名

例年であれば、表彰式を行ってありますが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、受賞される皆様方の健康や安全にもかんがみて、表彰状等を送付することで表彰式に代えさせていただくことになりました。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 横浜海事記者クラブ

問い合わせ先

所属	関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所
担当	副所長 中川 大（なかがわ ひろし） 調査課長 渡部 昌治（わたなべ まさはる）
電話	045-461-3893

令和元年度優良業務及び優秀技術者の表彰について

1. 目的

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所が発注し完了した業務において、その成果及び業務への取り組み方が優秀であり他の模範となるものを表彰することにより、技術力の向上及び円滑な事業の推進に資することを目的としています。

2. 表彰される件数、人数（下表参照）

- (1) 優良業務 2件
- (2) 優秀技術者 2名

3. 業務の概要及び表彰理由（資料参照）

優良業務及び優秀技術者

業務の名称	優秀技術者氏名 職種	業者名 代表者名 住所
東京湾護岸前面活用試験における環境調査	吉川 勝志 管理技術者	三洋テクノマリン株式会社 高嶋 新 東京都中央区日本橋堀留町 1-3-17
石積護岸の維持管理技術検討業務	伊藤 直和 管理技術者	一般社団法人 海洋調査協会 川嶋 康宏 東京都中央区日本橋本町2-8-6

優良業務及び優秀技術者表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 業者名	さんようてくのまりんかぶしきかいしゃ 三洋テクノマリン株式会社		
ふりがな 技術者名	よしかわ かつし 吉川 勝志	職種	管理技術者
ふりがな 業務名	とうきょうわんごがんぜんめんかつようしけんにおけるかんきょうちょうさ 東京湾護岸前面活用試験における環境調査		
履行期限	(自) 平成31年4月19日 (至) 令和2年3月27日		
事務所名	横浜港湾空港技術調査事務所		
業務概要	本業務は、木更津港君津地区において、水和固化体及びカルシア改質土を用いて整備されたカウンター工びその周辺において、環境調査、健全度調査、流況調査等を実施し、カウンター工の影響及び環境創出効果を把握するものである		
表彰理由	<p>本業務は、平成29年に既存護岸前面に設置した水和固化体及びカルシア改質土を用いたカウンター工について、付着生物等の経年変化を確認するモニタリング調査である。モニタリング開始から3年経過しており、カウンター工設置による既存護岸前面海域における環境変化及び環境創出効果を把握し、評価する必要があった。</p> <p>受注者は四季の調査で、カウンター工に付着した動植物の繁茂及び生育状況を過年度の調査と比較しながら評価を行うとともに、隣接する通常的基础マウンドとの付着生物との比較の実施やカウンター工に夜間にも撮影できる間欠カメラを設置し、夜間時のカウンター工の生態系の調査も行い、環境創出効果を明らかにした。</p> <p>また、適切な観測項目や観測層を計画したうえで台風15号の接近時にも欠測無く観測を遂行し、台風通過後には、臨時点検を実施し、観測機器や対象施設の異常有無を把握するなど作業内容の変更要請に迅速に対応したとともに、台風15号の高波浪においても水和固化体及びカルシア改質土が港湾施設のマウンド材あるいはカウンター材として活用できる評価も行った。</p> <p>以上のように、荒天時の対応をはじめ、水和固化体及びカルシア改質土で構築されたカウンター工が、環境保全と構造物保全を兼ねている優れた方式として将来的に展開を期待できるものであることを取りまとめるなど、優れた技術力をもって業務を履行し、業務目的を十分に満足する成果を上げた。</p>		

優良業務及び優秀技術者表彰の概要及び表彰理由

ふりがな 業者名	いっばんしゃだんほうじん かいようちようさきようかい 一般社団法人 海洋調査協会		
ふりがな 技術者名	いとう なおかず 伊藤 直和	職種	管理技術者
ふりがな 業務名	いしづみごがんのいじかんりぎじゅつけんとうぎようむ 石積護岸の維持管理技術検討業務		
履行期限	(自) 令和元年8月23日 (至) 令和2年3月13日		
事務所名	横浜港湾空港技術調査事務所		
業務概要	本業務は、石積護岸の維持管理技術の確立にあたり、石積護岸の可視化技術を活用したBIM/CIM技術を用いて維持管理手法の検討を行い、石積護岸の維持管理マニュアル(案)の作成を行うものである。		
表彰理由	<p>本業務は、石積護岸の維持管理技術の確立にあたり、石積護岸の可視化技術を活用したCIM技術を用いて維持管理手法の検討を行い、石積護岸の維持管理マニュアル(案)の作成を行うものであり、業務の実施にあたっては港湾施設の維持管理に関して精通しているとともに調査から維持管理段階に至る過程においてBIM/CIM技術を合理的に活用するための技術力を有している事が必要不可欠である。</p> <p>当該受注者は港湾整備事業や海洋調査技術に関して豊富な経験を有しており、石積護岸の維持管理手法の検討にあたり本業務の検討対象とした既存石積護岸についてBIM/CIMによる維持管理モデルを作成し、過年度調査において取得していた点群データを活用した変状等の解析を行いBIM/CIMの活用が施設の維持管理手法として有効であることを確認したほか、港湾の施設の点検診断ガイドライン並びに港湾の施設の維持管理計画書策定ガイドラインでは、石積護岸の構造特性や景観特性を踏まえた適切な維持管理手法が言及されていないことを踏まえ、予防保全、港湾景観の維持・保存、3次元計測技術等の最新調査技術、BIM/CIMの活用など様々な観点を反映し、港湾における石積構造における汎用性の高い維持管理マニュアル(案)をまとめ上げるなど、優れた技術力をもって適切に業務を履行し、業務目的を十分に満足する成果を上げた。</p>		